

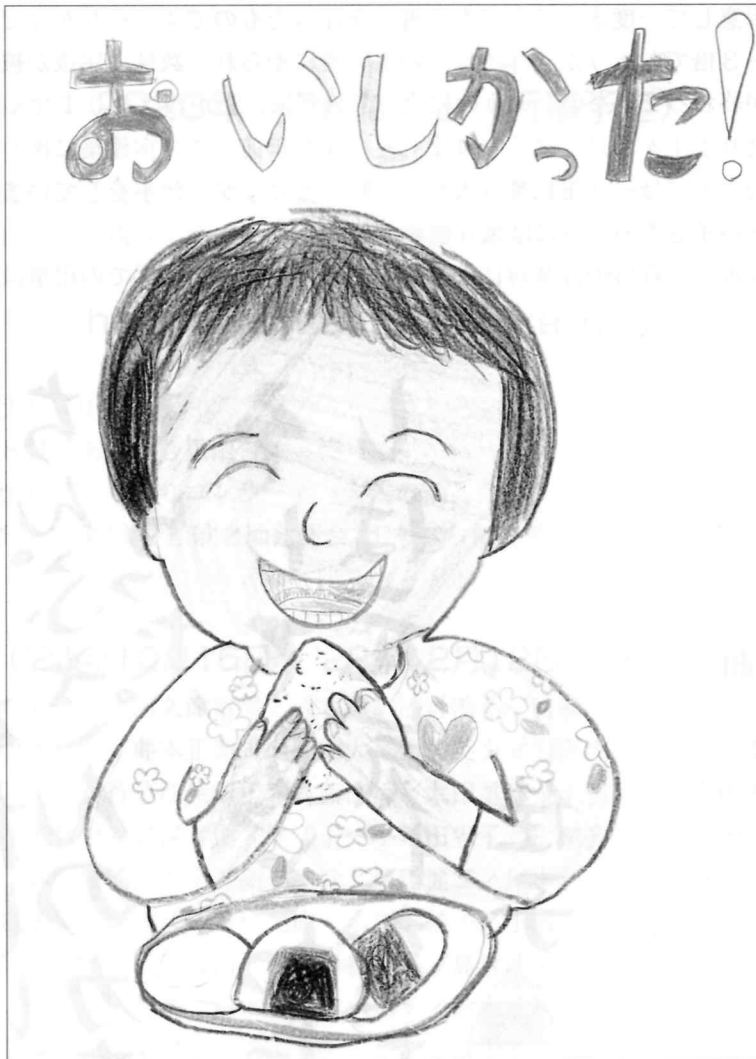
あぶらむ通信

第44号 2022年12月 あぶらむの会発行

〒509-4121 岐阜県高山市国府町字津江3225-1

TEL・FAX 0577-72-4219

E-mail : abram@hidatakayama.ne.jp



今年も元気 新米おにぎり

絵：北澤佳子ちゃん (小学2年生)

飛騨便り

コロナ時代3年目、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
あぶらむの里は世の中の動きに連動して、少しは人の訪れる動きはあったものの「陸の孤島」といった方がふさわしい

状態でした。

○里にみる気候変動

訪れる人が少なくなって寂しいだろうと思ったのか、自然の神様はクリスマスごろから雪雪の毎日。

正月2日から屋根の雪おろし、初仕事にしてはハードなものとなりました。雪の量にはさほど驚きはしませんが、その重さには恐れを抱くようになってきました。

あぶらむの里を開設したのが1988年。今から34年前、そのころは寒さも厳しく-18℃を記録した年もあった。雪質はパウダースノーで子供たちと雪合戦する時など雪玉作りができず、バケツに水を用意して一度水に浸してから雪玉を作ったものです。それが今ではベタベタ雪、重さ的には2~3倍でしょうか。昨冬はその重い雪にやられ、数棟の屋根が被害を受けました。まだ修復が終わっていないというのに次の冬の到来、急がねばなりません。

また寒さの訪れも1ヶ月以上遅くなりました。30数年前、この宿建築に携わった大工さんたち、10月中旬ごろには一斗缶に焚き火をして暖をとりながら仕事をしていました。また私の好きなオートバイもそのころには乗り納めでした。

しかしここ最近では野外の作業時に火を焚くこともなく、バイクでの用事は12月初旬ごろ

わたしの体になつた。
だからわたしはお
ちゃんぶささんの力を
もらった。
そしてもっとわた
しは元気になつた。

佳子



まで寒さを感じることはなくなってきました。夏野菜のピーマンがもうすぐ12月というのに、まだ鮮やかな緑色をして実をつけています。確実に気候の変動を強く感じるあぶらむの里での定点観測です。

○子供たちとの自然学校でコロナクラスター

あぶらむの宿開設以来30年余り続けてきた子供対象の里山自然学校、コロナ1年目は休校したものの、コロナ禍における子供たちの心境を思い昨年再開。4泊5日と例年よりも1日短縮とはいえ無事に終了。コロナ3年目の今年はこれまでにないお姉さんお兄さん役のスタッフを11人、台所要員10名と充実して開校した。

丸2年間行動を制限されてきた14名の子供たちの動きは最初から活発だった。

たたみ1畳分の掘りごたつに11人も入りトランプに興じていた。あまりにも楽しそうに嬉しそうに、子供らしい「密」を通り越したその光景に私は注意する気にはなれなかった。

3日目、北アルプスの美しい風景を見せたいと、上高地周辺をトレッキングした。その日の夕方から1～2人と体調を崩し、4日目朝、川遊びの日には4～5人と増えていた。抗原検査をしたらコロナ陽性反応、すぐに別棟に陽性者を隔離し、あぶらむ自然学校OBの川上優太郎医師の助言を得ながら今後の措置を検討した。

一方、地元高山の保健所に報告し指示を求めたが、「他府県の子供は責任外」とつれない返事。病院は病院で「3日過ぎて未だ熱が下がらない様ならば改めて連絡を」との返事だった。あぶらむとしてすぐに自然学校中止を決定し、子供たちを可能な限り早く家庭へ返すこ

あぶらむから
お米がといた。
そのお米はおちん
ぶさんががんばっ
たカが入っている。
わたしはそのお米
を食べた。
おちんぶさんが
作ったお米をわたし
が食べたらそのお米
は

とにした。しかし沖縄からの4名の参加者はそのような訳にはいかず、病状がおさまるまでここで様子を見ることとなった。

子供の参加者14名、それを支える大人のボランティアスタッフ21名、計35名のうち12名の陽性者が発生した。ありがたいことに重症化する者はなく、特に子供たちは医師の言う通り3日ほどで熱が下がった。また70歳以上が3人いて感染が心配されたが無事だったことに一同安堵した。「陸の孤島」となりコロナ感染は対岸の火事のようなだったが、やはりここは孤島ではなく人の訪れが1名でもある限りコロナ感染とは無縁ではないことを強く認識させられた。

○迷ったらしっかり立ち止まりなさい

「人生は旅、私たちは旅人」、旅人応援支援を活動の柱とするあぶらむ、これまで海外からの若者も加え、多くの若者たちが私たちと生活を共にしてきた。3年目を迎えたコロナ時代、「私たちの現在の生活の在り様を見つめ直しなさい」という天からのメッセージなのか、それに応えるかのように人々特に心ある若者たちは内省的になってきているように思う、「自分の生き方どうあればよいのだろうか。いまの私たちの社会、これで良いのだろうか」と。半月から長い人で1年近くここで生活を共にし、時には家庭裁判所から委託された少年のお姉さんお兄さん役となり、またここでの季節作業の重要な担い手となってきた。車で見知らぬところへ行くにはカーナビという便利なものがある時代だが、「人生ナビ」となればそんな便利なものはなく、あえて便利さ安直さを求めれば待ち受けているものは、いまお騒がせのようなカルト集団が関の山と私は思っている。たとえ世の中がどんなに進歩し便利になったとしても、自分探しの旅は古典的であると思う。しっかりと悩み、しっかりと立ち止まり、人を訪ね自分以外の世界、価値観に目を開き、自問自答しながら自分自身で道を見つけ出していくしか方法はない。私たちにできる大切なことは、真剣に自分探しをしている彼らに安心して立ち止まれる場を提供していくことではないだろうか。このコロナ時代になってあぶらむを訪れる人は少なくなったが、自分探しの若者たちが増えてきたことは大きな喜び、恵みと思っている。

昨年の表紙絵を描いてくれた佳子ちゃんが、1年経ち小学2年生に。今年も元気の出る絵を描いてくれました、ありがとう。2枚の絵を見くらべると、ずいぶんお姉さんになったことがわかります。しかしテーマは「おにぎり」、食いしん坊なのかな!? ゴメンナサイ。来年度も元気の出る絵、お願いします。

それでは皆様、どうぞよいクリスマスと、そしてよいお年をお迎えください。

2022年12月 あぶらむの会 代表 大 郷 博

人生旅路の途上、迷ったらしっかりと立ち止まりなさい

飛騨便りにも書いたように、このコロナ時代でここを訪れる人が少なくなったが、それに反比例するかのように「自分探し」の若者や、立ち止まらざるを得なくなった人の訪れが増えてきました。「旅人の宿」を働きの一つとするあぶらむにとっては大きなことと思い、安心してしっかりと立ち止まれるような場づくりに今後とも努めたく願っている。

私にとっての「あぶらむの里」

50代 会社員

全ての人間の脳は精神や肉体の限界を超えると簡単に壊れることを経験した。日本の精神医療では薬物療法が主流である。さらに日本は、海外にて違法薬となっている薬が合法薬として使われているのでこの分野では後進国である。私の実体験では薬物療法は、対処療法であって根本治療ではない。その副作用は別の症状を引き起こす負のスパイラルに陥っていくこともある。薬害被害が多くあるが、日本の精神医療において合法薬として承認されており、精神科医師も責任逃れをするため、薬に縛り付けられた患者は泣き寝入りの状態である。当に日本の精神医療の闇である。

人間は誰もが自然治癒力を持っている。私は「幸せホルモン」を分泌させるために自分がやりたい非日常的な環境に身を置いたり、「今、ここに集中する」というマインドフルネスに該当する行動活性化によって「脳を騙まして幸せにする」ことで「自然治癒力」を引き出すことができ、精神薬を断薬することで精神的な病（脳の病）を克服し十分な睡眠、気力、体力を取り戻すことができた。そして私が抱えていた身体症状の「不眠、耳鳴り、筋緊張頭痛、ヒステリー球、手足のシビレ、腹筋の緊張など」の沢山の症状は自然消滅していき、「耳鳴り、筋緊張性頭痛」を残すのみである。

2021年9月末、突然全く眠れなくなった。市販の睡眠薬で対処したが全く効果が無く、11月末に心療内科・精神科にて睡眠薬を処方され脳を強制シャットダウンし睡眠を取って凌いだ。それでも2時間半～3時間ぐらしか睡眠がとれない状況が数か月続き、その他の治療も行ったが身体・脳の病態は悪化し続け、体力は見る見るうちに減少、仕事を遂行できないレベルに到達、ドクターストップがかかり2022年2月休職に至った。

2022年5月、何処にも出かける意欲がない状況の中、兄弟が以前から関心を持っていた「あぶらむの里」に一緒に行かないかと誘われた。以前出来ていたことに対し自信がなくなっていたこともあって飛騨高山まで車を運転していくことすら自信が無く不安であった。初めて連絡を取る大郷先生に事情を話すと、「芽が吹く5月の時期は精神的にも不安定になることがあるので十分注意して来るか慎重に決めた方がいい」というアドバイスを頂いた。今までの医師目線ではありえない自然に即したアドバイスを聞いてより行ってみたいと思い、「あぶらむの里」を訪れることになった。

「あぶらむの里」の私の印象は、初めて会う旅行者同士が、力を合わせて一緒に様々な仕

事を行って自由な時間を過ごし、気兼ねなく話し合い、交流する“自らの心（脳）を整える場”である。作業を通じて精神療法を行う「あるがままの森田療法」に似ている点がある。ここに集う人達は旅人と言われるが、日常生活で何かに疲れて、その心（脳）を癒すために自然と集まり、何度も訪れたいくなる心の拠り所、訪れる度に温かく迎えてくれる「ホーム」の存在である。初めての訪問時、大郷先生より「薪割り」をやってみないかと誘われた。私にとっての「薪割り」は、「今、ここに集中する。」という“マインドフルネス”そのものである。30kgもある玉切られた丸太でも弱点がある。木一つ一つに性格があり、どの部分に斧を入れれば最小の力で割ることができるか考えながら行うことが脳の刺激と活性化につながる。斧の柄に、左小指に力を入れて、余計な力を入れずに右手を軽く添えて振り下ろし、軽い力と斧の自重で丸太を割る。この条件が一致しヒットした時に気持ちよく割れる。「あぶらむの里」の真っ青な空の元、川のせせらぎ、鳥の声、時々聞こえるプロペラ機の飛行音ぐらいしか聞こえない静粛な山奥での「薪割り」をして、ヒットした時の「パーン」という快い音が山に木霊した時は、自然と一体になって生きている実感がし、全てを忘れて取り組むことができる。

今後は、季節が変わるごとに行われる「あぶらむの里」の農作業等や飛騨高山の自然を生かしたイベントなどに参加したり、時には大郷先生が企画するイベントにも自分のノウハウを持って協力させてもらう等、非日常的な環境に身を置き「今、ここに集中する」“マインドフルネス”を大自然の中で経験し、自らの心を整え自分と周囲の人生を豊かなものにしていきたい。

今回、発病し休職することは私の人生で大きな収穫があった。休職期間中の時間の有効活用とリハビリを兼ねて、自分の興味があったことにチャレンジする意味で大型バイクの免許取得・家庭菜園という残りの人生で大きな影響を与える新たなストレスコーピングになる趣味をものにするのができた。休職しなければ「あぶらむの里」に訪問することは無かっただろう。一期一会。今回は大きな痛みを伴う休職であったが、私の人生に大きな収穫があり、神様が何らかのメッセージを送ってくれていたのだと思う。

休職後の2022年3～6月は職場復帰ができる気がしなかった。

2022年11月、再び職場に復帰した。

あぶらむで過ごした2週間

稲田 萌香

あぶらむ通信を読んでいる皆さま、はじめまして。

千葉県千葉市出身の稲田萌香と申します。

歳は23歳、新卒1年目です。大学3年生の3月に企業の内定をいただいていたのですが、インターンを経ているいろいろ考えて内定を取り消してもらい、フリーで人生の方向性を決めている最中です。

あぶらむの里とご縁があったのは、作家やイベント企画などをされている星夜さんという

方に大郷先生を紹介していただいたのがきっかけです。

「ものすごく真髓に出会えた！本物に出会えた！っていう感じがしたの。絶対、出会って欲しい人」とおっしゃるので、そこまで言ってくれるのならと、7月のイベントで初めてあぶらむに訪れました。出会ってみて、私自身も「本質」というワードがぴったりの場所だなと感じました。

その時（今もですが）、好きなことややりたいことはたくさんあるけれど、どれかひとつを極めたいという気持ちではないし、好きなこととお金を稼ぐことが繋がらないし…という不安を感じていました。それを大郷先生に話した時にいただいたアドバイスが、

「興味のままだ行動すること、そこで出会った人たちとのご縁を大切にすること」でした。

その時、大郷先生たちと一緒にいれば「何か」が学べそうだと思います。その「何か」の正体もよく分からないまま、お手伝いとして滞在させてくださいとお願いしました。募集もしていないのに電話でお願いするのは初めてだったので、ドキドキでした（笑）

そうして10月6日から約2週間、滞在している間は夢のような時間でした。学ぶことも多すぎて、何から書けばいいのか…

時系列に沿って、学芸会から振り返りたいと思います。参加した方々の個性に驚きました。バイオリンを弾く方、家族で歌う方、平和を歌で語る方、ギターで熱く歌う方、夫婦で歌う方…どの発表も本当に素敵でした。特に、家族や夫婦で何かひとつの発表をするっていいなあと羨ましくなりました。

そして次の日は落語会。落語って学校以外で聞いたことなかったのですが、とても面白かったです！1人でずっと話してるのに情景や登場人物をそのまま見ているような気分になって、没入しました。

出し物自体も楽しかったのですが、その後の2次会？も大盛り上がり。大郷先生に酒飲みだと思われたり、何十人分の食事を出したり、大変なこともありました（笑）大郷先生や朝比奈先生の貴重ななれ初め話も聞いてしまいました。

その次の週末は、稲の脱穀をお手伝いさせていただきました。稲田という名前なのに、今まで田んぼに入ったことがなかったんです。なので、これでようやく自信を持って稲田姓を名乗れます（笑）稲穂を持つことももちろん初めてで、実りの多い束とそうでない束の重さの違いに驚き、持った束に重みを感じる「豊かさ」を見つけました。昔の人は、凶作だとさぞつらかっただろうなと思いました。みささんと「そりゃ一揆も起こしたくなるよね」なんて話をしました。ただの知識だった歴史の内容に血が通うような実感がありました。

大きなイベントを3つも体験できた期間でしたが、貴重な体験はそれだけではありません。大郷先生や小川さん、別日には静谷さんとキノコ狩りに行きました。そのどちらの日も、松茸が採れたのです！！（もちろん見つけたのは先生たちで、私はその場にいただけですが…笑）土瓶蒸しや炊き込みご飯にいただきました。本当に本当に贅沢な時間でした。しかも買ったものではなく、自分の敷地で採ったものだということがすごい。自然からの恵みだなあとしみじみ思いました。

あと印象に残っているのは薪割りです。薪割りをするときには、中心を狙って目を逸らさないこと、力ではなく遠心力を使うことなどに気をつけるように教わりましたが、いちばん本質的な教えがありました。それは、「心と体の一致」です。割る瞬間は、声を出して息を吐

くことで、イメージしたものと体の動きが一致しやすくなるという教えです。他のスポーツにも同じ原理があるそうです。確かに、うまく割れた瞬間は瞑想状態に入ったような感覚になりました。とはいえ、非力なのか真ん中に当たっても全然割れず、声が腹から出ていないぞと先生に茶化されましたし、翌日はちょっと筋肉痛になりました。。薪割り、いつか習得できたらいいなあと思います。

体験だけでなく、みなさんとの会話の中での学びが山ほどありました。料理や食、お金、国際情勢、宗教、政治、アナログとデジタル、物とゴミ問題などなど…2週間でたくさん考えさせられるような課題を与えられた感覚で、これからじっくり向き合いたいです。真面目な話だけでなく、毎日大笑するようなくだらない話もたくさんありました(笑)素晴らしい人ばかりだったことが、2週間の滞在期間をかけがえのないものにしてくれたのだと思います。本当に人と環境に恵まれていました。

最後に、大郷先生と育さんから受け取ったメッセージについて書きます。最終日の夜、猿のお面をかぶってふざけてた私に先生がふと言った言葉。聞き流しそうになり、言葉のニュアンスしか覚えていないのですが、「萌香は飾らないでそのままがいい」と言ってくれました。後になってその言葉がじわじわと沁みました。また帰る直前に、選別したじゃがいもを少し欲しいと言った私に「思ったことを正直に言えるのは良いところだよ。悪く言えば図々しいけどね笑」と育さんは言いました。嬉しくもあり、ちょっと反省もあり。(あぶらむのじゃがいもは甘くて美味しくて、特に父が大喜びでした。) こうした言葉を聞いて、おふたりともよく見ているんだな、お見通しだなと感じました。ほぼ初めましてなのに、2週間という短い期間で「こんな人」というのを見てもらえたと思うと嬉しくなります。

長くなりましたが、本当に濃い2週間を過ごさせていただいた大郷先生と育さん、そして出会ってくださった全ての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。ここで得た学びや経験は、きっといつか必要な時、私に力を貸してくれることと思います。

遅くとも来年の10月には仲間たちと訪れる予定ですので、ご縁がありましたらぜひお会いしましょう。

3週間のあぶらむ生活

サクマ ケンスケ

皆さんはじめまして。

サクマケンスケと申します。

私はこの文章を書いている今現在(11月25日)、大郷さんご夫婦の元、住み込みであぶらむのお手伝いさせていただいています。

まず初めに簡単に自己紹介をさせていただこうと存じます。

私は茨城県在住で今年30歳になります。

数ヶ月前に、コロナの影響で勤めていた動画制作会社が倒産した事をきっかけに、以前から理想であった、自然に囲まれた環境での生活を経験する為、沖縄で数ヶ月生活している最

中に知人からあぶらむの事、大郷さんご夫婦のことを伺いました。

私の幼少期時代、家庭環境が良いとは言えず、幼いなりに苦勞してきました。

大郷さんご夫妻の少年少女たちへの生活支援や、「人生の良き旅人」を育てる宿泊施設にとても興味を持ち、大郷さんにご連絡させていただき3週間の住み込みでのお手伝いをさせていただき運びとなりました。

今はインターネットの発達が進み、行った事のない場所でもネット上で確認出来たりと、訪問させていただくまえに、予めあぶらむの里を拝見させていただいていました。

しかし、いざお邪魔させていただくとあまりにも広いあぶらむの里の敷地に驚くと同時に、大郷さんご夫妻で管理されていると伺い、3週間という短い期間の中でも少しでもお役に立てればと思い、今日までお手伝いさせていただいています。

この3週間の中で、学んだこと、印象深いことのいくつかを、このあぶらむ通信に記載させていただこうと思います。

まず始めに、敷地内で採れる椎茸にはとても驚きました。そのサイズは赤ん坊の顔より大きく、食べてみると椎茸の旨味が詰まって、まさに大郷さんが仰る「山のアワビ」そのものの食感でした。今までスーパーで購入した椎茸はなんだったのか?と思わせるほど美味しかったことを覚えています。

次にあぶらむの里の敷地内の建物にも驚きました。巨大なバーベキュー会場、ツリーハウス、五右衛門風呂、ボートが浮かぶ池、諸魂庵など、その全てに大郷さんやお手伝いして下さった皆様の労力や気持ちが込められていると考えると敬意を表さずにはられませんでした。これは私自身も大郷さんと建物作りを経験させていただき、どれだけ労力を費やすのか身を持って経験したことで、理解出来たことだと思っています。

その建物作りの最中で、大郷さんから頂いたお言葉があります。「人に気を遣うな。仕事に気を遣え。」正直なところ、最初はあまりこの言葉にピンときていませんでした。しかし、お手伝いさせていただく内に少しずつ理解出来るようになってきました。

山での作業は常に危険と隣り合わせです。丸太は一本で数百kgありそれらを複数本重機で持ち上げて移動させ、チェーンソーで切断していく。どのシーンでもちょっとした油断で大怪我に繋がり、最悪の場合、自身や相手の命に関わることもあります。そんな環境下での作業となるので、常に相手が何を思っているのか、何を見ているのか、この後どのような展開になるのか、どの道具が必要になるのかなど、常に考え続けることが「仕事に気を遣う」。更にその先に、そういった行動、思考が「人に気を遣う」という事だと教えていただいたのだと思っています。

お恥ずかしい話ですが、実は昨日、一輪車で運搬の際に足を滑らせ膝を岩にぶつけてしまい、大事には至りませんでしたが、この原稿を書いている今現在室内でお休みさせていただいております。もっと回りを見て把握していればこの様なことにはならなかったのですが、まだまだ仕事に気を遣えてなく、精進が必要だと身を持って痛感しています。

あぶらむに来て本当に色々な経験をさせていただいています。育さんはお料理上手で、いつも気にかけていただき、家族のように愛をくださり、あぶらむにいらっしゃる他のお客様との交流は非常に刺激を貰え、大郷さんとは二人で五右衛門風呂に浸かり、洞窟（名称募集中です）で焚き火を眺めながらビールを飲んで、皆既月食の時には大郷さんご夫妻とテラス

で月を眺めたりと本当に毎日幸せな経験をさせて頂いています。

私は小規模ではありますが宿泊施設を創りたいと考えています。

お金儲けだけを目的としたものではなく、いらっしゃる方を癒し、今後の人生の活力になるように。生きる希望を、力を見つけられるような場所にしたい。そう考えてます。

3週間はあっという間ですが、この期間に学んだこと、感じたことをこれからの人生、宿泊施設創りにも活かしていきたいと思えます。

あぶらむの生活で愛を持って接して下さった博さん、育さん、出逢った全ての方々。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

皆さん本当に温かく、家族のように感じております。

本当に有難うございました。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。



“密”もなく、爽やかな空気を吸い…と、ここまではよかったです…。残念！
来年の里山自然学校は今年の反省を踏まえて再挑戦!!



コロナ禍の中でもやり続けた「大人の学芸会」、中島みゆきの「ヘッドライト・テールライト」や、昔懐かしい「宇宙戦艦ヤマト」など、「あぶらむ、コロナに負けるな!」の応援歌に強く励まされた。そして翌日、3年ぶりの「桂歌之助 落語会」。歌さんもしっかりと3才齡をとっていた…。お互い様ですね…。

『第10期通常総会 開催報告』

第10期通常総会を2022年3月にあぶらむの里で開催いたしました。多くの方にご参加いただき、心よりお礼を申し上げます。

日 時：2022年3月19日（土）16：00～18：00

場 所：あぶらむの里 母屋

出席者：正会員24名（あぶらむの里7名、リモート参加17名）

総会次第：

- (1) 開会挨拶
- (2) 議長・書記・議事録記名押印人の指名
- (3) 定数の確認
- (4) 議案

・ 役員を選任（第11期は役員任期2年の1年目です）

役員全員再任で可決となりました *敬称略

理事：大郷博（代表理事）、山田益男、西田邦昭、杉木峯夫、柴原薫、
大郷育、川上美砂、西村正和

監事：川上詩朗

- ・ 第10期活動報告
- ・ 第10期決算報告及び監査報告

<貸借対照表>

資産合計 96,611,896円（流動資産49,281,303円 固定資産47,330,593円）

負債合計 84,257円（短期借入金84,257円）

正味財産 96,527,639円（うち当期正味財産減少額2,810,560円）

<収支内訳>

収入合計 7,960,614円（会費収入1,509,760円 寄付収入2,705,000円
研修収入1,837,600円 他）

支出合計 10,771,174円（減価償却費を除いた実質支出7,878,043円）

当期収支△2,810,560円（減価償却費を除いた実質収支 82,571円）

- ・ 第11期活動計画
- ・ 第11期予算(案)

<収支予算案>

収入合計 7,680,000円（会費収入1,500,000円 寄付収入2,700,000円
研修収入2,300,000円 他）

支出合計 10,680,000円（減価償却費を除いた実質支出7,680,000円）

当日の資料、議事録は、あぶらむの会ホームページに掲載しています。

<http://www.abram-no-kai.com/>

画面右メニュー "会員専用ページ"（パスワード：UTE48）にログインして、

画面右メニュー "2022年総会報告" をクリックしてください。

『第11期通常総会について』

第11期通常総会をあぶらむの里で開催させていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。

2023年度会費納入いただいた会員各位に対して、1月下旬～2月上旬頃に正式案内状を郵送させていただきます。

日時：2023年3月18日（土）16：00～（15：30～受付開始）

場所：あぶらむの里

議案：第1号議案 第11期活動報告、決算報告、監査報告

第2号議案 第12期活動計画、予算案

2022年あんなこと（あぶらむこの一年）

- 1月・元旦から除雪、2日から屋根の雪下ろし。
2021年記録的な少雪でしたが、その分までと記録的大雪となり、3月まで雪との闘いの日々となった。
- 2月・猪^{いぶし}臥山（1530m）健康チェック雪山登山。
今年は2回も、もう少し元気で働けそうです。
- 3月・19日 あぶらむの会第10期通常総会（あぶらむの里にて）
- 4月・濁^{にご}ゼミ研修会、コロナ時代久しぶりの大人数研修となる。
- 5月・田畑の準備開始。21日、田植え。
- 6月・築33年となったあぶらむの宿、給湯管に漏れが見つかり大工事となる。建物の老化は人間と同じく水回りから…。
- 7月・15日 大郷、3年ぶりに東京へ。一日中マスクの生活、慣れぬ私には死にそうな苦しみだった。皆さんの気持ち少し理解出来ました。
 - ・17日 濁^{にご}ゼミ研修会Ⅱ
 - ・27日 岐阜 生と死を考える会
- 8月・5日～10日 里山自然学校。8日、コロナクラスター発生となり中止決定、以後新規宿泊予約を中止とする。
 - ・20日 飛騨地区里親会と養護施設 夕陽ヶ丘の子供たちとのデーキャンプ。良い交わりのひとときとなった。
- 9月・3日 飛騨里親会「自分への気づき」勉強会開始、月一回で6回シリーズの予定。
 - ・雪害により折れた倒木の処理開始。
 - ・23日 稲刈り予定、雨で中止。わざわざ13名の応援隊が来てくれたのに延期となる。
 - ・30日 稲刈り再び。2週連続で遠方より駆けつけてくれた応援隊に感謝！

- 10月・8日 持ち寄りコンサート（大人の学芸会）
 - ・9日 第12回 桂歌之助落語会 in あぶらむの里
限定50人で満席となる。
 - ・15日 脱穀 ヒエの大量発生で20%近くの減収となる。その足で裏山に登り松茸2本
ゲット!!
 - ・22日 里親会与養護施設の子供たちとの交流会。
- 11月・16日 岐阜市の田口さんより、立派なケヤキの一枚板のテーブル寄贈される。
 - ・17日 雪害による建物の補修再開、半月ほどの予定。
- 12月・越冬準備。もうすぐ雪が降るというのに雪害によって破損した屋根の修理終わらず。
雪が来るまでにと大車輪の日々。
 - ・あぶらむ通信44号発行
どうぞよいクリスマス、よいお年をお迎えください。

2023年 こんなこと（行事予定）

コロナ時代4年目を迎え第8波が拡大しているの、まだまだ全てが流動的です。現在確定しているのは下記の通りです。その他は決定次第、あぶらむのホームページにてお伝えします。

<http://www.abram-no-kai.com/>

- ・5月20日（土） 田植え
- ・8月4日～8日 あぶらむ里山自然学校
- ・10月7日（土） 持ち寄りコンサート（大人の学芸会）
8日（日） 第13回 桂歌之助落語会 in あぶらむの里

||||| 寄付者（'21年12月16日～'22年12月12日） 敬称略 |||||

赤嶺聡子／秋本光一郎／阿久津富男／浅香恵／浅野美希／新家恵子／市川聖マリア教会／一柳典利・百／伊藤浩子／井本正樹／岩崎海大／岩佐英夫／岩沢満／岩田幼稚園／上原成和／鶴川久・貴子／鶴川雅行／江見淑子／遠藤淳治／太田丞慈／太田昌子／大山直子／岡登信義／小川智子／沖縄聖マルコ保育園／奥洋子／小野田恵子／片桐多恵子／片山佳子／加藤正／門谷成美／河合昇・栄子／川上詩朗・美砂／河田健二／岸本望／北澤茂良・良／木ノ内伸子／黒木一郎・誠子／甲藤善彦／香村美成／小久保純一／小柳證／財満研三郎・由美子／坂本吉弘／佐々木淳／佐多和子／塩川久枝／静谷英夫／島倉沙公子／清水幸平／清水美保子／下田英一・由香／杉浦進・恵美／鈴木暁／鈴木和子／鈴木武次／鈴木知子／鈴木正士・裕子／鈴木康仁／須田肇／須間栄津子／清家美佐子／平良富士子／高瀬章／高瀬留美／高野優・永／高橋秀／田口清吾／橋政與志／舘野裕之／棚原恵正／谷章子／谷中秀治／俵里英子／丹安紀子／中部学院大学／辻村徳治／坪井令夫／露木充／寺田信一／東京セントポールライオン

ズクラブ／富永紀子／富山聖マリア教会／豊永泰子／直井雅子／中島務／中谷洋明・知英子
／中村力・英子 　／中村洋・久美子／中村正明／新垣トシ子／二井正秀／野田修助・和子／
長谷川秀司／長谷川牧子／畑井正春／羽根英子／速水直子／原川節子／平田美知枝／福田裕
昭・陽子／藤井和彦／藤井真喜子／藤田町子／藤本隆／古川齊／北條鎮雄／星野一朗／前田
晃伸／松戸聖パウロ教会／三沢悠子／水谷小枝子／光安啓明／三原一男／宮古聖ヤコブ教会
／宮本房江／三好利和／宗像千代子／諸岡研史／八木克道／安田香恵／山田益男／山本鐘三
／横浜聖クリストファー教会／立教小学校

||||| 物品寄付者（'21年12月16日～'22年12月12日）敬称略 |||||

（株）アリミノ 田尾兵二／クラブマンファクトリー 高橋秀／下田商事 下田英一／宮崎秀貴

||||| 会費納入者（'21年12月16日～'22年12月12日）敬称略 |||||

相沢牧人／赤井充也／秋本光一郎／秋山献之／朝野恵美子／朝比奈時子／朝比奈誼／穴井悦
子／飯島千津子／飯田孝太郎／池淵透／石原博之／一柳典利・百／伊藤幸史／伊藤尚洋／伊
東日出子／伊藤浩子／今関公雄／入江努／岩佐葵史子／岩崎海大／岩沢満／岩田全弘／岩間
光雄／上田敏明／上村誠／鶴川久・貴子／内田孝・由美／宇野徹／大島裕子／大房健樹／岡
登信義／小川卓／小野裕／加倉井誠／掛水雅江／笠井正志／笠原雅子／片桐多恵子／勝山千
里／加藤正／加藤真智子／金子眞／加納美津子／唐木田麻起子／河合昇／川上美砂／川上玲
子／川口弘二・暁子／河田健二／木島出／岸本望／北澤茂良・良／金城真生／久世治靖／倉
石昇／倉辻明男／栗山盛雄／栗山洋子／黒田則子／小池直子／小泉恵子／小林賢三／小松純
一／小柳證／斉藤寛明／酒井厚子／坂本澄夫・純子／笹岡淳也・由紀子／佐々木国夫・紀久
江／佐藤耕一・正子／佐藤純／佐藤哲典／佐藤芳子／座間幹生／沢野弥生／下畑幹／柴原薫
／渋沢一郎／渋谷真理／島文子／清水幸平／清水喜子／志村弘子／下田英一・由香／城下彰
／神保和子／杉浦幸恵／杉浦進・恵美／杉木峯夫／杉村進／杉本良平・和子／鈴木暁／鈴木
重雄／鈴木武次・保子／鈴木ちえ／鈴木知子／鈴木正士・裕子／鈴木康仁／ストップス静江
／砂川博秋／聖母訪問会／仙敷正俊／園部千恵子／染谷孝章／高瀬留美／高野優・永／高橋
保／高濱友里江／田口清吾／竹中浩／竹林徑一／棚原恵正／俵里英子／丹安紀子／筑井宏子
／辻村徳治／友野博樹・和子／豊永泰子／永井深雪／長坂尚／中台信子／中谷洋明・知英子
／中野良春・えりこ／中村洋・久美子／中山美世子／長谷幸雄／七瀬谷重男／新倉俊吾・久
乃／西垣正子／西口晃／西口喜久枝／西村正和／野崎久子／野田修助・和子／菽尾出穂／羽
柴加寿代／長谷川秀司／長谷川牧子／畑井正春／播磨裕治／日野忠市／福留祥子／藤井誠・
ひろ子／古市進／古川秀昭・昭子／星野一朗／星野直子／前田晃伸・容子／前田晃・広世／
前田眞智子／松井明子／松井勲／水谷勝／宮崎秀貴／宮嶋眞／武藤六治／宗像千代子／村松
麻里／衆樹歩実／八木克道／矢後和彦・正子／山内寿美子／山口泰生／山崎美貴子／山田益
男／湯田啓一／吉野美智子／吉野康／若園紘志／若松壮平

||||| 新規会員（'21年12月16日～'22年12月12日）敬称略 |||||

伊藤尚洋／岩田全弘／大島裕子／掛水雅江／坂本澄夫・純子／清水喜子／神保和子／鈴木重
雄／棚原恵正／中谷洋明・知英子／七瀬谷重男／村松麻里／若松壮平